

経済・金融 フラッシュ

米個人所得・消費支出(22年4月) 個人消費(前月比)は年初からの堅調な伸びが続いていることを確認

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 個人所得は市場予想を下回る一方、個人消費は予想を上回る

5月27日、米商務省の経済分析局(BEA)は4月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.4%(前月:+0.5%)と前月を下回った一方、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.5%に一致した(図表1)。個人消費支出は前月比+0.9%(前月改定値:+1.4%)と+1.1%から上方修正された前月を下回った一方、市場予想の+0.8%を上回った。また、価格変動の影響を除いた実質個人消費支出(前月比)は+0.7%(前月改定値:+0.5%)とこちらは+0.2%から上方修正された前月を上回った一方、市場予想の+0.7%に一致した(図表5)。貯蓄率は4.4%(前月:5.0%)と前月から▲0.6%ポイント低下した。

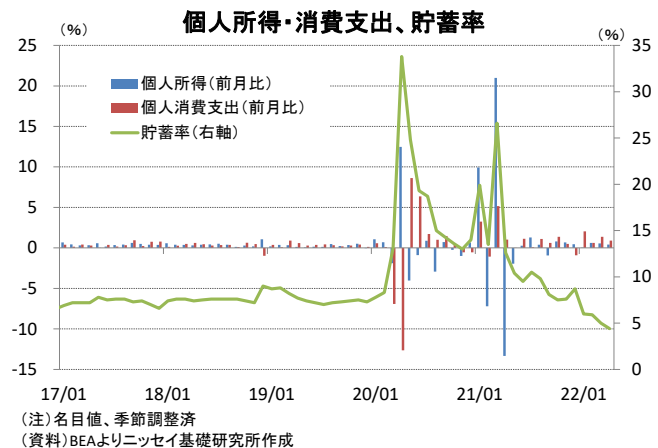
価格指数は、総合指数が前月比+0.2%(前月:+0.9%)と前月から大幅に低下、市場予想(+0.2%)に一致した。変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は前月比+0.3%(前月:+0.3%)と前月、市場予想(+0.3%)に一致した(図表6)。前年同月比は総合指数が+6.3%(前月:+6.6%)と前月を下回った一方、市場予想(+6.2%)は上回った。コア指数は+4.9%(前月:+5.2%)とこちらは前月を下回った一方、市場予想(+4.9%)に一致した(図表7)。

2. 結果の評価: 堅調な個人消費が持続

4月の個人消費(前月比)は名目ベースで4ヵ月連続の高い伸びが持続しているほか、高インフレにもかかわらず、実質ベースでも4ヵ月連続でプラスを維持しており、年初から個人消費は堅調を維持していることを確認した(図表1、図表5)。

一方、個人所得は増加基調が持続しているものの、経済対策の期限切れに伴う移転所得の減少などもあって、22年以降は消費の伸びを下回った。この結果、貯蓄率は4ヵ月連続で低下し、08年8月(3.8%)以来の水準となった。このため、家計は物価上昇に伴い実質購買力が低下する中、貯蓄を取り崩して消

(図表1)



¹ 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

費に回している状況が浮き彫りとなっている。

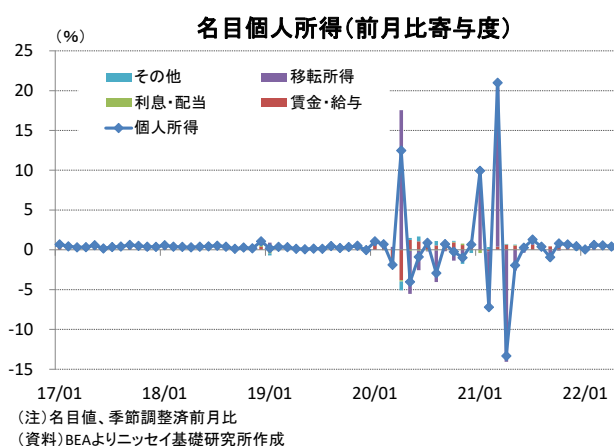
一方、FRBが物価指標としているPCE価格指数（前年同月比）は、エネルギー価格の伸びが鈍化したこともあって、総合指数が20年11月以来、17ヵ月ぶりに前月から低下した。また、物価の基調を示すコア指数は2ヵ月連続で低下しており、既に物価上昇圧力がピークアウトした可能性を示唆している。

3. 所得動向:賃金・給与の堅調な伸びが持続

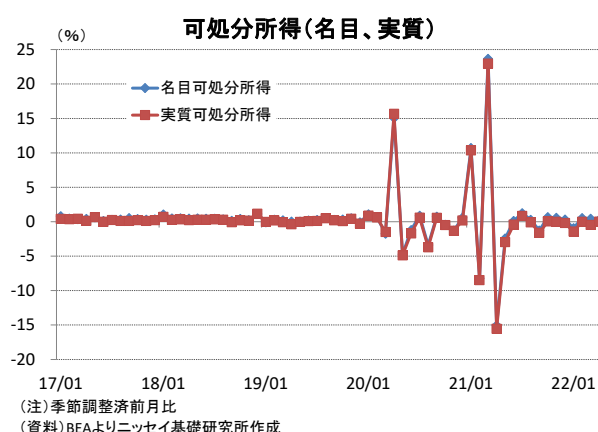
4月の個人所得（前月比）は、労働需給の逼迫を背景に賃金・給与が+0.6%（前月：+0.7%）と前月から鈍化したものの、堅調な伸びを維持したほか、利息配当収入が+0.8%（前月：+0.5%）と前月から伸びが加速した（図表2）。一方、自営業者所得が▲0.5%（前月：+0.9%）と前月からマイナスに転じたほか、経済対策の期限切れに伴い移転所得も▲0.0%（前月：+0.2%）と伸びが鈍化した。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は、4月の名目が+0.3%（前月：+0.4%）と前月から伸びが鈍化した（図表3）。これで伸びの鈍化は3ヵ月連続となった。また、価格変動の影響を除いた実質ベースでは横這い（前月：▲0.5%）とこちらは小幅ながらプラスに転じた（図表3）。

(図表 2)



(図表 3)



4. 消費動向:自動車・自動車部品の伸びが加速

4月の名目個人消費（前月比）は、財消費が+0.8%（前月：+1.9%）、サービス消費が+0.9%（前月：+1.1%）といずれも前月から伸びが鈍化した（図表4）。

財消費は、耐久財が+2.4%（前月：+0.5%）と前月から伸びが加速した一方、非耐久財が▲0.1%（前月：+2.7%）と4ヵ月ぶりにマイナスに転じた。

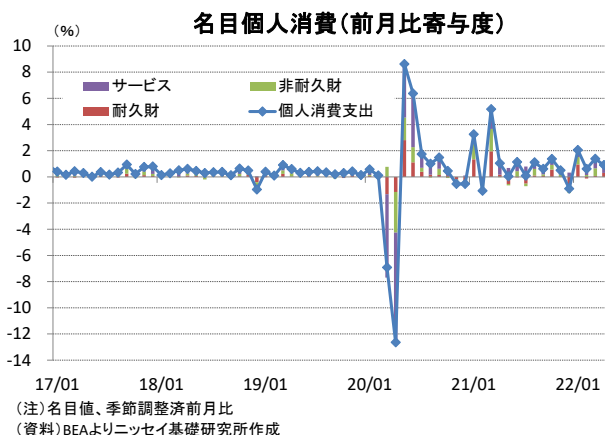
耐久財では、娯楽財・スポーツカーが+1.8%（前月：▲0.8%）と前月からプラスに転じたほか、自動車・自動車部品が+4.2%（前月：+1.2%）、家具・家電が+1.2%（前月：+0.6%）と前月から伸びが加速した。

非耐久財では、衣料・靴が+1.3%（前月：+1.1%）と前月から伸びが小幅ながら加速した一方、食料・飲料が横這い（前月：+1.1%）と伸びが鈍化したほか、ガソリン・エネルギーが▲5.3%（前

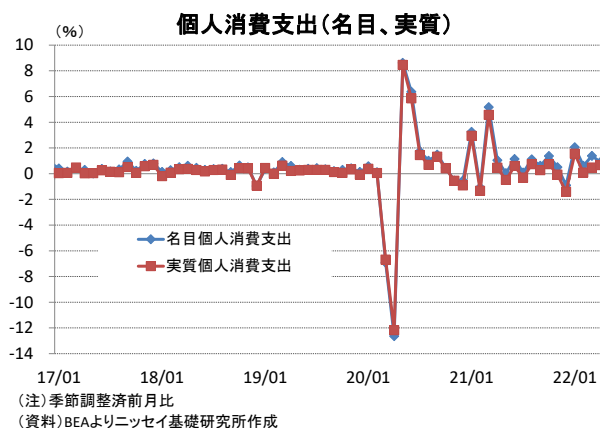
月：+15.8%）と前月に2桁の伸びとなった反動もあってマイナスに転じて、非耐久財消費全体を押し下げた。

サービス消費は、住宅・公共料金が+0.8%（前月+0.6%）、外食・宿泊が+2.0%（前月：+1.9%）と前月から伸びが加速したほか、金融サービスが+0.4%（前月：+0.4%）と前月並みの伸びを維持した。一方、輸送サービスが+3.1%（前月：+5.1%）、娯楽が+1.5%（前月：+2.3%）、医療サービスも+0.1%（前月：+0.5%）と前月から伸びが鈍化するなど、マチマチの結果となった。

(図表 4)



(図表 5)

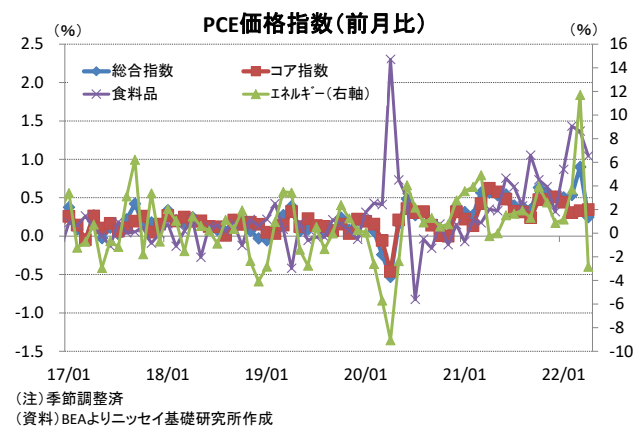


5. 価格指数: エネルギー価格(前月比)は21年5月以来、11ヵ月ぶりに下落

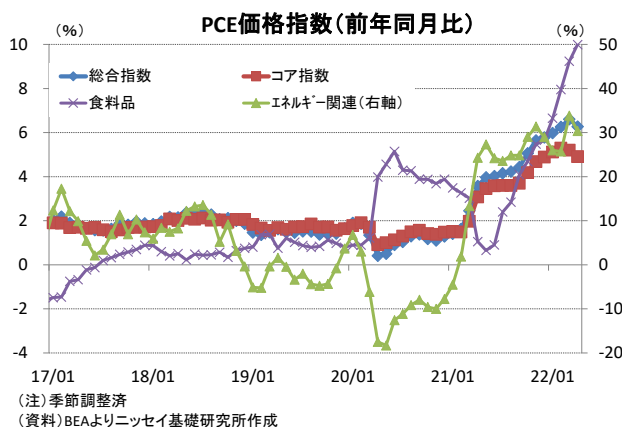
価格指数(前月比)の内訳をみると、エネルギー価格指数が▲2.8%（前月：+11.7%）と21年5月以来、11ヵ月ぶりにマイナスに転じた(図表6)。食料品価格指数は+1.0%（前月：+1.4%）と、こちらは15ヵ月連続のプラスとなった。

前年同月比は、エネルギー価格指数が+30.4%（前月：+33.9%）と前月から伸びが鈍化したものの、14ヵ月連続で2桁の上昇となった(図表7)。また、食料品価格指数は+10.0%（前月：+9.2%）と58ヵ月連続のプラスとなったほか、81年3月（+10.5%）以来の高い伸びとなった。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。